—2026大学入試—
# 合格者の軌跡

Story of their Success

Academy Campus

進学先
## 神戸大学
### システム情報学部

橋脇 立恭さん

桐蔭高校
ボート部

### Academy Campus入会のきっかけを教えてください。

**橋脇：** 家の近くのGES〈小中学生部〉明和校に兄が通っていたこともあって僕も中1から通い始めました。桐蔭高校に合格したあとは、そのまま高校生版GESという気持ちでアカデミーに。高校の授業についていけるか心配で、遅れを取るよりは早めに準備したほうがいいかと考えて、それなら4月から通った方がいいなと思って。数学はアド(アドバンスクラス〈ACクラスライブ授業〉)、英語はハイ(ハイレベルクラス〈ACクラスライブ授業〉)に。中学生の頃から深山先生(GES)のおかげで英語に触れる機会が多かったし入試でもけっこういい点数を取れてたので、ハイレベルで頑張ろうと思って。数学は特段苦手っていうわけでもないけど、英語と同じぐらい得意かって言われたらそうでもないのでアドバンスにしました。

### 志望校を決めた時期やきっかけは？

**橋脇：** 初めは大阪大学を志望していました。関西圏でレベルの高いところと考えたのですが、京都大学はちょっとレベルが高すぎてやる気が出なかったので(笑)。高3まではずっとそう思ってたんですけど、大阪大学は二次試験の数学の配点が高くて。でも大学別模試の成績では数学が一番低かったんです。自分は浪人はできないって考えたときに、最終的に挑戦する勇気がなくて神戸大を受けました。

### 高1・高2の勉強法、ボート部との両立はどのようにしていましたか。

**橋脇：** 定期考査は、中学生の時と同じようにとにかく高い点数を取っていい成績をと思って、けっこうしっかりやってました。評定の目標はもちろん全部5。結果、三年間の評定は4.8でした。部活は、特に夏場は練習場所が紀の川で、19時を過ぎてから解散という日がけっこうあって。僕の家まではかなり距離があるから家に帰って晩御飯を食べたらもう21時というような日が多かったのでしんどかったです。でも、ご飯・お風呂の時間をできるだけ早くして22時からは勉強を始めていました。高1・高2でも、やり始める時間を自分で決めることで無理をしてでも毎日2時間ぐらいは勉強をできていたと思います。塾のある日は、部活を最終までやったあとに来ていたので開始時間にギリギリ間に合うという感じでした。あと、僕は高1からずっと「1時間勉強して10分休憩」と区切りをつけて進めていました。集中できるときに集中するっていうより、この時間だけは必ずやってこの時間休憩するっていう、勉強の習慣をつけることが大切だと思ったので。だから、やると決めたら1時間は必ず集中するようにしてました。で、学年があがるにつれて、休日はできるだけ午前中も勉強しようと決めていました。学校でも友達が昼休憩に図書室で一緒に勉強しようって言ってくれたので、隙間時間の勉強は増えていったと思ってます。高1から数学はFocus Gold(Focus Gold〈啓林館〉)でちょっとずつ進めていたので、高1・高2では数学にかなり時間をかけました。英語は単語を覚えていたぐらいだったので、高3になって初めて英作の重要性に気づいて焦りました。英語は、学校の授業の文法を理解して単語が頭に入っていたら、どこの大学の長文でもある程度読めるし、自分で進めやすい教科だと思うので。振り返ると、高1・高2の時から英語の力をもっとつけられたのではって思います。

### 6月に部活を引退してからの勉強はどのようにしていましたか。

**橋脇：** 引退後の勉強時間は、夏休みも冬休みもそんなに変わらなくて11時間ぐらい。でも一日中ずっと勉強し続けるのではなくて、疲れたときにはおやつを食べてコーヒーを飲んでっていう息抜きの時間もとっていました。共テの演習は12月ぐらいから始めたと思います。本試験の五年分を解いたあと、自分で各予備校の共テ対策の教材を買ってそれも全部五回やりました。余裕のあった教科は追試も。あと、共テ模試は一日でやりきってしまうので終わる時間も遅いけど、絶対その日に自己採点して翌日にはやりなおしをするようにしていました。で、返却されたタイミングでもう一回解き直す。模試の直しはけっこうやりましたね。

## 集中して勉強できる場所は？

**橋脇：** 僕は家のリビングです。家族は普通にテレビを見たりスマホ触ったりしている中だったので、静かな環境でというわけではなかったです。もちろん家族も気にはしてくれていましたし、だいぶ協力してくれました。自分の部屋でやったら？って言われましたけど、そういうのも無視してリビングでやり続けた感じです(笑)。過去問とかを静かな場所で一気に集中してやりたいと思った時だけ自分の部屋でやりました。

## おすすめの参考書などはありますか。

**橋脇：** 使っていた参考書でおすすめなのは、英文熟考(大学受験のための英文熟考 上下 改訂版〈旺文社〉)。個人的にはめちゃくちゃよかったと思います。数学はやっぱりFocus Gold。基本的なことは全てできるので、変にいろいろ問題集に手をつけるより、集中してやるのが大切だと思います。何回も通る。けっこうしんどいんですけどFocus Goldって「やってる感じ」「進んでる感じ」がしたので。三周ぐらいやったかな…。あと、物理と化学は学校の教材をして、最後に重要問題集(化学重要問題集、物理重要問題集〈数研出版〉)をやりました。

## 入試会場の雰囲気はどのような感じでしたか。

**橋脇：** 共テの試験会場は両隣も後ろも同じ桐蔭生だったので話もできて緊張することはなかったんですけど、神戸大学は初めての会場。周りも知らない人ばっかりでめちゃくちゃ緊張して。一教科目の英語が全然頭に入ってこなくて、気づいたらもう20分経ってて。めちゃくちゃ焦って、落ちるかもとかいらないことばかり考えながら解いた記憶があります。英語のあとは「僕だけができていないわけじゃない、数学に切り替えよう」っていう思いで頑張りました。でも、その数学が過去問史上一番難しかったんです(笑)。過去問を解いたときは、5問中3問完答、調子が良かったら4問完答できてたんです。でも当日は、問題に目を通して解ける問題からと思っても、大問1・2で1時間ぐらい経ってて。残りの時間でできるだけ解けたらいいかとも思ったんですけど、そこでペンが動かなくて。想定では3完するつもりだったので、英語も数学もできてないとなるとまずいぞって焦ってしまって。気づいたら終わってました。そのあとの理科は自分の決めたペース配分で解けたので、実力通りの答案は書けたかなと思います。でも、英語も数学も自分の想定よりだいぶ悪かったから、後期まで頑張らないといけないのかという気持ちになりました。そう思っても、前期が終わったらやっぱりやる気が落ちてしまって。もう勉強嫌やなと思いながら中期日程の勉強をしていました。そんな気持ちの中の発表日、合格がわかった瞬間は「あったー！」って家の中で走り回りました(笑)。嬉しかったです。

## Academy Campusのことについて教えてください。

**橋脇：** 数学〈ACクラスライブ授業〉は3年間ずっとRyu先生(山本先生)で。Ryu先生の授業で先取りしてくれていたおかげで学校の授業にも遅れを取らずに自分で学習を進めることができたし、ちょこちょこ難しい問題を入れてくれたので数学の土台作りにめちゃくちゃ役に立ったということを特に高3になってから感じました。学校の進度に遅れず、自分でどんどん積み重ねられたのはアカデミーキャンパスのおかげだと思っています。

英語〈ACクラスライブ授業〉は、高1・高2はハイレベルクラスで受けていました。で、高3で吉田先生の授業(難関大二次対策英語)を受けたときに危機感を味わいました。英作の対策は高3になるまでできてなかったので。英語が得意と思ってたけど、課題の英作を提出して添削してもらった答案を見ると、もっと頑張らないとって思うことが多かったです。

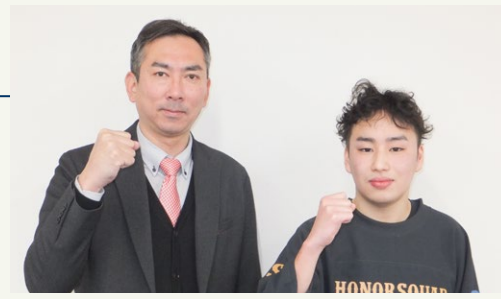
あと、印象に残っているのは、年末にやった共通テストリハーサル(12月末の二日間、共通テスト当日と同じ時間配分・会場の雰囲気で共通テスト本番を体感するAC特別講座)です。共テと完全に同じスケジュールだったので、本番でもそこまで焦ることなくできたと思います。自分が思っていたより、開始前の待機時間は何もすることがないなとか休憩時間長いなとか、そういうのが経験できてよかったです。

友達もアカデミーに通ってる子が多かったので、勉強の話をできる仲間がいたっていうのも、アカデミーキャンパスのおかげだったと思っています。受験するにあたってめちゃくちゃお世話になった場所でした。

## 後輩へのメッセージをお願いします。

**橋脇：** 受験勉強に関しては、高1・高2のいつから始めてもいいと思う。できるだけ早く。特に数学と英語は早めに手をつけておかないと、最後まで足を引っ張る教科になると思うので頑張ってほしいです。あと、部活動はやり切ったほうがいいです。勉強できない理由を部活動にしたい気持ちも分かるんですけど…。僕自身、高2のときはずっと辞めたいと思ってた。でも、辞めたからと言ってそこまで差がつくほどでもないと思う。ボート部はけっこう厳しいので忍耐力はめちゃくちゃ身についたと思うし、部活がしんどすぎて逆に勉強が楽しいって思えたので、役立ったなと思います(笑)。勉強する方が楽やから勉強頑張ろうみたいな。最後までやり切ればまた違う景色っていうか、いろんなものが得られると思うので頑張って続けてほしいと思います。

## インタビューを終えて



橋脇君が所属していたボート部の練習は紀の川で行うことが多く、紀の川からACへ向かう日も多かったと思います。早朝から始まる日もあり、日々の生活リズムを整えることが前提となっていました。朝練や放課後練習といったハードなスケジュールの中で、体力的な負荷も大きく、決して楽な環境ではありませんでした。その中で勉強と部活を両立するために、「限られた時間の中でどう成果を出すか」を常に考えながら取り組んでいました。

高1・高2の段階から毎日コツコツと勉強時間を確保し「やる時間を決めて必ずやる」という習慣を徹底していました。こうした積み重ねが、最終的な合格につながっています。

また、部活動についても大切なメッセージがあります。忙しさを理由に勉強から逃げるのではなく、両立する中で得られる忍耐力や集中力は、必ず自分の力になります。橋脇君も厳しい部活動を最後までやり切ったことで、人としての成長を実感していました。途中で諦めるのではなく、「やり切る経験」そのものが大きな財産になることを示してくれています。部活動に励む皆さんには、ぜひ参考にしてほしいと思います。

部活動と受験勉強で得た経験を糧に、神戸での大学生活がさらに充実したものになることを願っています。

AC県庁前校カウンセリングスタッフ　赤井 栄木